

## 第59回黒部川土砂管理協議会

### ●開催要件

○開催日時 令和8年2月17日（火） 13:30～14:40

○会場 黒部市生涯学習センター「ぷらっと」 1Fイベントホール

○出席者

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| ・ 武隈 義一 黒部市長           | ・ 山下 大樹 富山県農林水産部次長   |
| ・ 笹島 春人 入善町長           | ・ 川上 孝裕 富山県土木部次長     |
| ・ 笹原 靖直 朝日町長           | ・ 須谷 浩史 関西電力㈱北陸支社長   |
| ・ 島光 芳典 富山森林管理署総括治山技術官 | ・ 中島 浩薫 富山県生活環境文化部参事 |
| ・ 木村 勲 北陸地方整備局河川部長（座長） |                      |

事務局 北陸地方整備局河川部、関西電力㈱水力事業本部

### ●議 事

#### 報告事項

- （１）第63回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び令和7年度連携排砂および連携通砂の実施結果ならびに環境調査結果等について
- （２）令和7年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

## 座長挨拶

### 座 長

開会に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、委員の皆様におかれましては、当協議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日の協議会でございますが、排砂期間後の開催ということで、今年度2回目の開催となります。

令和7年度につきましては、全国的に梅雨明けが早くて、大変猛暑となりまして、渇水が心配されるような年でございました。ただ一方で、8月に入りますと、今度は非常に天候が不安定になったというような年でございました。

そのような中、令和7年度の連携排砂につきましては、後ほど事務局から詳細について説明がございますが、梅雨明け前の6月に連携排砂を1回、8月には細砂通過放流を1回ということでございまして、合わせまして出し平ダムからの排砂量については33万 $\text{m}^3$ ということで、ほぼ目標どおりの排砂が実施されたということでございます。

また、その結果につきましては、1月20日に開催しました黒部川ダム排砂評価委員会におきまして、各委員の皆様からご審議をいただいたということでございます。

本日は、本協議会の皆様、さらには関係機関、関係団体の皆様からのご意見を踏まえまして、引き続きより自然に近い形での連携排砂を目指していきたいと考えておりますので、本日は限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願いしたいと思います。

### 議 事

- (1) 第63回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び令和7年度連携排砂及び細砂通過放流の実施結果並びに環境調査結果等について
- (2) 令和7年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

### 座 長

では、今ほど報告がありました内容について、質疑に入りたいと思います。

まず、報告事項(1)の評価委員会の結果並びに環境調査結果等につきまして、何かご

意見、ご質問がございましたらお願いいたします。

#### **A 委員**

資料－２の４ページ、多分これは泊漁協からの意見だと思っています。私も直接来るたびに言われているのは、連携排砂の場合と細砂通過の場合、細砂通過のほうが濁りが非常に長いということで、実際その時期が８月１１日というのは、ちょうどお盆の時期でもあって、泊漁協は唯一３名の専門の漁業者がいるわけでありますが、二、三日間潜れなかったということなんですね。要は、仕事としてできなかったということをはっきりと言われました。その分、その対応に対してもやっぱり真摯にしていかなければならないのではないかなということと併せて、繰り返しになりますが、８月１１日、１３日というのはお盆の時期であるということも一つのポイントなのではないかなと思っています。間違いなく連携排砂と細砂通過の場合の濁りの、要は沈みが長いということが現場の声として言われておりますので、その点またしっかりと対応していただければなと思っています。

#### **B 委員**

（１）のことと各団体からの意見の対応ということにリンクするのですが、団体の意見の中の９ページに、評価委員会のメンバーの方々との協議の場を設けていただきたいという要望がございます。これはやはり、評価委員会の皆さん方から出ているこの資料と団体の方々との内容が食い違う、多分考え方の違いがこういう話になってくるのではないかなと思っております、確かにこちらに書いてあるように、環境影響を評価することを目的としているんだということからすると、考え方は違うかもしれませんが、ここに出ているデータと、多分、実際に現場におられる方々との感覚の違いといったことがこういう意見になっているのではないかなと思いますので、やはりこの評価委員会の皆さん方の意見というか、資料というものをもう少し細かく説明してあげていただきたいなと要望させていただきたいと思います。

#### **座 長**

この件で何か事務局で見解はございますか。

#### **事務局**

ご意見ありがとうございました。

まず最初のＡ委員ご意見がありました細砂通過放流と排砂の関係、濁りの違いというところでございますが、濁りのところは我々は細砂通過放流時も濁度の計測を河川で実施をしているところでございます。海域のところは少し手薄になっているかもしれませんので、

しっかり海域の濁りの拡散の状況とかもできる限り確認をして、ご意見をいただいたような内容になっているのかも引き続き確認をしてまいりたいと思っております。

あわせて、評価委員会のメンバーとの協議の場というところでございますけれども、関係団体の方々には、評価委員会開催前には資料をそれぞれ事前説明ということで、我々事務局で回って説明させていただいているところでございます。その部分についてはご意見をいただきましたので、引き続きしっかり説明していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## **座 長**

ありがとうございます。

引き続き、報告事項、まず（１）に関して、何かございましたらお願いいたします。

## **C委員**

環境調査のデータの件で、別添－２－①の５ページでよろしいでしょうか。

左上にＳＳのデータがあります。それで、宇奈月ダム直下の観測最大値４万１，０００ｍｇ／Ｌということで、この観測最大値の値についてちょっとお聞きしたいんですけれども、ここ何年間かの観測最大値のデータから比較しても、過去の書類を見ていると結構高いなというのがちょっと気になりまして、これはどんな要因なのかなということでお聞きできればなと。

細かい話なんですけれども、１年前の協議会の資料を見ますと、排砂の操作方法として、従来操作、先行操作、実績操作という３つの操作方法で比較検討されていたはずですが、そういった資料をお見受けしてしまして、その中で、先に宇奈月ダムから自然流下を行う先行操作が最もこの宇奈月ダム直下の観測最大値のピークの値を分散させるといいますか、低くさせるような方法だと書いてありました。

このダム直下の最大値については、ピークの抑制策についていろいろと検討されたと思っておりますので、今年度のこの調査結果について見解があればお聞かせいただきたいなと思っております。

## **座 長**

事務局で何か見解がございましたらお願いします。

## **事務局**

ご質問ありがとうございます。

今年、宇奈月ダムの下流でＳＳの値が少し高かったというところで、特に３ページ目を

見ていただきますと、過去の数字も含めてSSの値が見られるかなと思います。左上が観測最大値ですので、左上の値の宇奈月ダム直下というところを見ていただければと思います。少し例年よりは高めですけれども、際立って今年が高かったとはあまり考えていないというのがまず1点目です。

操作方法についてですけれども、宇奈月ダムの下流を見たときには、先行操作のほうでSSの低下、軽減が図れるというところは以前ご説明していたとおりかなと思いますけれども、実態としまして、先行操作をすることによって、操作時間が長くなるであったり、実際排砂が最後まで完了できるのかどうかというところもございますので、今年度は概ね先行することなくといいますか、ほぼほぼ出し平、宇奈月と同じようなタイミングで、水位低下であったりフリーフローに入ったというようなところでございます。

当然SSを下げることも重要ですが、同じように毎年しっかり計画排砂量を出し切るというところも重要なと考えておりますので、そういった点も含めてお考えいただければと思います。

#### **C委員**

排砂の方法についてはいろいろと比較検討されていると思いますので、今後とも環境への影響がより少ない方法で排砂を行っていただくよう、また進めていただければと思います。よろしくお願いします。

#### **事務局**

ありがとうございます。

#### **座 長**

ほかにいかがでしょうか。

#### **D委員**

団体からの意見のほうでもよろしいですか。

#### **座 長**

そうですね。では、報告事項（2）も併せましてお願いいたします。

#### **D委員**

10ページの農業団体の意見のとおりなんですけれども、漁業の団体の皆様の意見とか、いろんな意見があって、調整が大変だとは思いますが、農業の関係者から聞くと、やっぱり最近では温暖化による、それからこちらに書いてありますように、大規模経営になっているというところで、水の必要な時期というのは、相当これまでよりもセンシティブ

になっているという状況がありますので、ここにも書いてありますように、取水停止期間が長期化しないよう配慮等、そういうことについて、より一段高くこういう問題が起きているんだということを認識していただければありがたいです。

以上です。

## **B 委員**

今のD委員に関連することなんですけれども、いろんな事務所のホームページなどで情報提供していただいていることは本当にありがたいなと思っております。

ただ、やはり農家から、逆に現場の情報などをお知らせした上での水の確保をしていたくような逆のシステムといったものをもうちょっと構築していただけないか。個々にはなかなか難しい、対応できないと思います。ただ、土地改良区であったり、あるいはJAからの要請などがあれば、ある程度対応していただけるような、そういうシステムもぜひ考えていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

## **座 長**

今の件、何か事務局からコメントがございましたらお願いします。

## **事務局**

ありがとうございます。稲の出穂期のときにかなり水が必要だということは、土地改良区さんからも強くご意見をいただいているところでございまして、そういった中で連携排砂、連携通砂を実施中に取水停止になってしまうというような状況、ご迷惑をおかけしているということは十分承知しているところでございます。

こちらに記載しているとおり、取水停止期間をなるべく短くする取組も引き続き検討して調整してまいりたいと思いますし、いただいた意見はしっかりと事務局としても受け止めて対応していきたいと思います。

あわせて、水の関係ですけれども、土地改良区さんとは常日頃から我々の事務局は連絡して、水が必要な時期とか、少ないときにどういう状況なのかというところは、いろいろやり取りさせていただいているところでございますので、そういった中で対応できるところは引き続き対応していきたいと考えてございますので、よろしくお願いいたします。

## **座 長**

よろしいでしょうか。

## **E 委員**

関係団体からの意見ということで、意見に対して非常に誠意のある回答をいただい

るのかなと思っております。引き続き、排砂につきましてもそうですし、河川にたまっている土砂の除去とか、そういったものもよろしくお願ひしたいと思いますが、やはり関係団体の方、ここに書いてあるように、例えば河川の土砂は通常であればたまるもの、管理しているから除くものという、我々からすれば理解できるところもあるんですが、実際そういう河川の管理の、ちょっと言葉はあれですけど、素人さんから見れば、例えば宇奈月ダムは通過だよと言われながらも、例えば10万m<sup>3</sup>といった土砂が、それが通常あり得ることだを書いてございますけど、それがなかなか理解が難しいのかなという面もあると思うんですね。そういったところを事例を示しながらとか、引き続き丁寧にご説明いただければなと思いますし、春、農業地に少し砂が入ったと。当時の話では例年より少し川が濁っているというお話を伺ったかと思います。そういった情報についても、土地改良区さんですとか、例えばあそこを管理されている北電さんですとか、また県への情報共有をより細かくやっていていただければと思っております。

以上です。

## 座 長

ありがとうございます。より関係者と情報共有を図りながらコミュニケーションをということかと思っております。そのように事務局で努めていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

ほか、(2)の報告事項も併せまして、ご意見等ございましたらお願ひいたします。

## B 委員

度々すみません。団体からの2ページにございますように、導流堤の設置によって、いろいろと入善漁港に対する流木に対する一定の効果が見られたという点で、漁業者の皆さん方から大変喜ばれているわけでありまして、できればもっと延ばしていただきたいという要望もここに書いてあるとおりでありまして、可能であればぜひ延長を願ひしたいなと思います。そのことで、土砂の流入防止にももちろんつながることと思いますし、より一層、流木の漁港への流入が防げる。そういったことから、漁船の事故であったり故障であったりといったことにも大きく影響すると思いますので、また漁業者の皆さん方の意見もしっかりと聞いていただいて、できれば少し延長を検討いただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

## 座 長

こちらの導流堤の話ですけど、多分いろいろ急激に整備をすると、その影響がいい方向

に行けばいいんですけれども、悪影響ということもありますので、やりながら、またモニタリングしながらというやり方になるのかなとは思いますが、もし事務局で何かこの件、こういったご意見があったということなんです。

## **事務局**

ありがとうございます。導流堤の設置目的なんですけれども、我々としては、下新川海岸の工事のために、ブロックの積出し基地というのがあって、そこはかなり土砂が堆積してしまうという中で、そういう軽減策ということで、仮設的にちょっと実施させていただいたところでございます。

そういった中で、入善漁協にそういった効果があったというのも伺っております。我々としては、ここに書いてあるとおりですけれども、土砂の流入状況とか見つつ、座長が言われるように、急激にやるとまたちょっと悪さすることもありますので、状況を見ながら対応を検討してまいりたいと思います。

以上です。

## **座 長**

多分、双方にとってより効果のある方法がよろしいかと思いますので、引き続きそういった観点で、現地確認しながら進めてもらえればと思います。

ほか、いかがでしょうか。

## **C委員**

先ほど細砂通過放流の関係でちょっと議論になったと思うんですが、報告事項、別添－3、4 ページで細砂通過放流基準の見直し検討という資料があります。これについては説明がなかったような気がするんですが、これはどのような形で見直しを検討されているのか、説明をいただけますでしょうか。

## **座 長**

では、事務局から補足の説明をしていただければと思います。

## **事務局**

では、説明させていただきます。4 ページ目、5 ページ目に説明を記載させていただいております。

見直し検討の背景といたしましては、今年8月11日、お盆の頃に細砂通過放流をさせていただきましたけれども、その前週の8月7日にも出水がございました。このときの出水なんですけれども、ちょうど宇奈月ダムと出し平ダムの間に多く雨が降った出水となっ



ておりまして、宇奈月ダムに関しましては、細砂通過放流の実施基準を上回った。出し平ダムに関しては $300\text{ m}^3/\text{s}$ が実施基準なんですけれども、それに対して $170\text{ m}^3/\text{s}$ ほどしか来なかったというような事象がございました。

こちらに関しまして、出し平ダムとしましては、 $170\text{ m}^3/\text{s}$ 程度の雨ですので、細砂通過放流の操作をする意義がないというところで実施をせず、宇奈月ダムに関しましては、出し平と基本的には連携して動くというのを前提に操作を考えておりますので、出し平ダムがしないのならやめておこうということで、やらないという結論で見送りを行いました。

ページをめくっていただきまして5ページ目ですけれども、こちらは細砂通過放流の今の基準を中段に記載させていただいております。ちょうど梅雨明け後ですので、2の実施基準の②梅雨明け後ですけれども、基準の記載としましては、排砂後にダム流入量は出し平ダムで $300\text{ m}^3/\text{s}$ 、宇奈月ダムで $400\text{ m}^3/\text{s}$ のいずれかを上回る取水時に実施ということで、いずれかということで、どちらかが満たせば必ずやるというような基準になっております。

今までこのような出し平と宇奈月の間で極端に雨が降るような事象というところは、過去もなかったですし、正直、我々からするとあまり想定していなかった事態です。ですので、こういった事態に関しましては少し柔軟に操作が対応できるように、実施基準というところを考えていきたいと考えています。具体的には、少し実施機関側に少し裕度を持ったような記載にさせていただければと考えています。

以上でございます。

## 座 長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

## C委員

結局、実施基準の表現は変わらないということですか。

## 事務局

記載の変更も含めて今考えています。

## C委員

ありがとうございました。

## 座 長

雨の降り方によって少し柔軟性を持たせた運用ができるような方向での検討になろうかと思っておりますので、引き続き事務局で検討をよろしくお願いしたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。

#### **F 委員**

今ほどの資料の熊の関係の出没に係る調査の見直し検討のところで、ちょっと1点だけ、もし分かれば教えていただきたいんですが、3つ目のところで、今回の熊出没による環境調査の中止を受けて、いろいろと今後に向けた検討をされているということで記載はあるところなんですが、一番最後の結果の取りまとめ次第ご報告をするというのは、大体どのぐらいの時期を想定されているのかというのを、もし分かれば教えていただきたいんですが。

#### **事務局**

来年度の計画のご説明のタイミングで説明できればなと思っています。

実際問題、熊が今年出てしまいましたし、こういった状況の中で、来年度もこの同じような状況下で調査を続けるというところは難しいかなと思っていますので、少し自動化であったり、熊のリスクを下げるような方向で早期に検討した上で、皆さんにご説明させていただければなと考えています。

#### **座 長**

具体的には年度明けの。

#### **事務局**

そうですね。5月の。

#### **座 長**

令和8年度の調査計画の段階でということ。

#### **事務局**

そのとおりです。

#### **F 委員**

分かりました。熊の関係はいろいろと話題になって、対応を迫られていた年ではあったんですけども、熊相手の話ですので、こちら側が思うようになかなかいかないところも多々あるんだと思いますが、分かり次第、ご検討結果を教えていただけると非常に参考になりますので、よろしくお願いいたします。

#### **事務局**

ありがとうございます。

#### **座 長**

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、その他、ご意見、ご質問がないようでしたら、議題についてのまとめに入りたいと思います。

本日の議題につきましては、63回の黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び7年度の連携排砂及び細砂通過放流の実施結果並びに環境調査結果等についてと、関係団体からの意見と対応についての2件、報告をいただいて議論をしていただきました。

今回いろいろと出された意見及び1月20日に開催されましたダム評価委員会での意見や評価を踏まえまして、事務局におきまして令和8年度の連携排砂及び環境調査計画の案を作成していただきまして、次回の協議会に提示をしていただきたいと思います。

また、今後検討や回答する必要がある事項につきまして、次回の協議会で回答していただく、または個別に対応できるものについては事前に事務局において対応をしていただきたいと思いますと考えております。

以上で本日の議事を終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。

それでは、司会を進行役にお返しいたします。

## **閉 会**

## **司 会**

ありがとうございました。予定の時刻より早く終わってしまいましたけれども、熱心なご審議ありがとうございました。

次回の協議会につきましては、令和8年度の連携排砂計画の案及び環境調査計画の案についてご審議いただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第59回黒部川土砂管理協議会を閉会させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。